

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくクラブ千里丘校			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日 ～ 2026年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ～ 2026年1月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価作成日	2026年1月22日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別・小集団、どちらにも対応できる体制の為、一人ひとりに合わせた発達支援のアプローチ	・子ども達が楽しんでいる間に自然と様々な発達が促されている取組 ・苦手なことも楽しみながらスモールステップで挑戦し、成功体験を積み重ねることが出来る取組	・子ども達が楽しく取り組める様に一人ひとりに合わせてスモールステップのカリキュラム内容を考案し続けていく
2	・関係機関(園・学校・相談支援員・病院等)との連携	・関係機関と連携することで事業所外の子ども達の様子を知り、事業所内での発達支援アプローチに活かしていること ・児童の将来に繋がる取り組みを意識したカリキュラム内容を実施していること	・関係機関との情報共有を定期的に行う ・共通認識を持った上で家族支援を行っていく ・事業所を併用している児童については、事業所間の連携を強化していく
3	・様々な視点からの子ども達とご家族の支援の実施	・スタッフの専門性を活かしてより良い発達支援内容を考えていること ・関係機関と連携し、多職種の視点を共有してアプローチしていること	・様々な視点から子ども達の発達を考えることが出来る体制を強化する為、内部だけでなく外部の方の視点も取り入れる機会を作っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職を配置していない為、専門的な支援を提供する体制を整えている事業所と比較すると、専門的なアプローチが弱い	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門的アプローチがない	・各市や関係機関の専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)と連携の継続。 ・定期的に専門職の方が開催している研修会への参加
2	・活動スペースがもう少し広ければ運動内容の幅が広がり、子ども達が思い切り身体を動かして遊べる	・より良い運動カリキュラムが実施できる運動スペースの確保や内容の改善	・安全面を配慮した環境整備 ・物の配置を工夫して最大限のスペースを確保 ・活動スペースに関係なく楽しめる運動カリキュラムの実施
3	・利用児童と地域との交流が弱い ・地域との交流を意識した取組を考える必要がある	・地域交流が弱いのは、近隣市から通所してくれている児童が多数在籍しているため、子どもたちに「自分の住んでいる町との交流」を叶えてあげられない	・近隣スーパーにお買い物体験する取り組みを増加 ・地域のイベントに参加 ・地域の方を事業所に招く ・地域との交流を検討して強化していく